



市議会議員 上田由美子 68-2106 Fax 68-2146



参議院議員 井上さとし



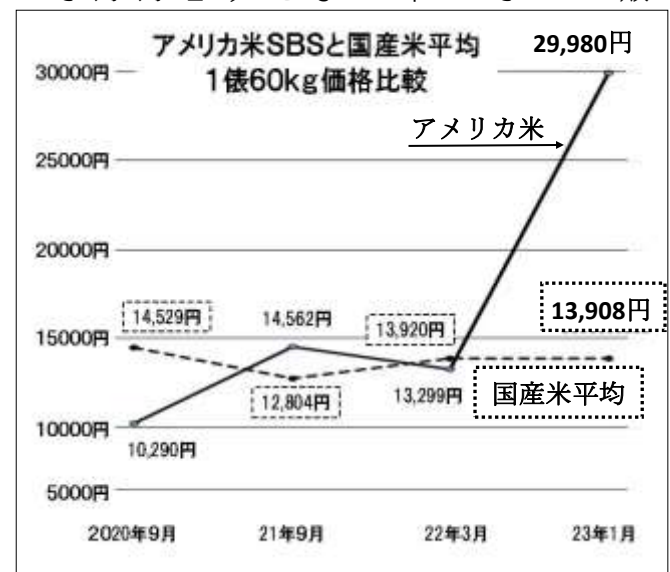
前衆院議員 藤野保史

アメリカ米なんと1俵3万円

新聞「農民」3月6日付に衝撃を受けました。今年1月30日に行われた2022年度主食用SBS輸入米(解説参照)入札で、アメリカ産うるち米(玄米短粒種)1俵(60キロ)2万9980円で落札(数量54トン)されたと報道されていたからです。

売れないアメリカ産米

無農薬栽培の有機米並みの販売価格ですが、こんな高い米がはたして売れるでしょうか。



主食用アメリカ産米の価格の推移

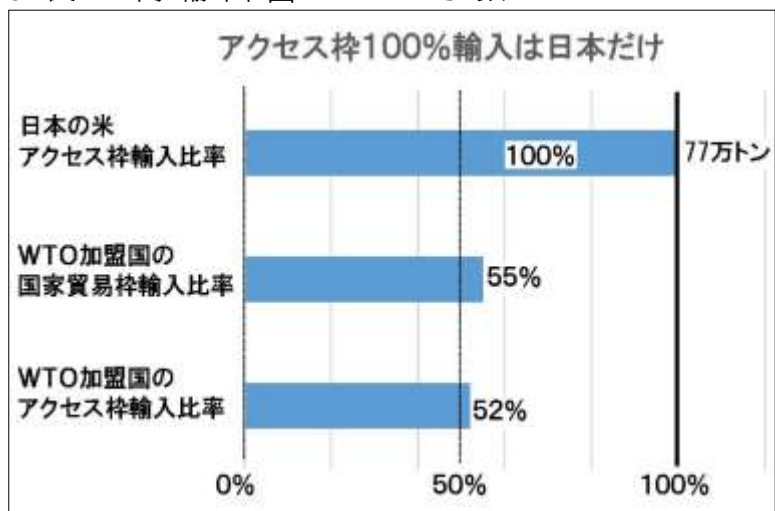
【解説】 SBS米は、日本が実際に輸入しているミニマムアクセス米のうち10万トンを上限として政府が輸入を認めているものです。これは、海外輸出業者、国内輸入業者および政府の間で取引されます。政府が海外輸出業者から買う買入価格と、政府が国内輸入業者に売る売渡価格が同時に入札されます。この買入価格と売渡価格の差額はマークアップと呼ばれ政府の収入となります。政府は、マークアップが大きい組み合わせから10万トンを上限として輸入を認めるものです。

ミニマムアクセス米の輸入をやめよ

ミニマムアクセス米に国内の需要がないことは、この事実からもあきらかです。日本政府は、国内には国産米が過剰だといつて、低米価で、そのうえ4割前後の減反(米を作らせないこと)も農家に押しつけています。キッパリとミニマムアクセス米の輸入をやめるべきです。せめて減反並みにミニマムアクセス米の輸入を減らすべきです。

ミニマムアクセス米 100% 輸入は日本だけ

日本政府はミニマムアクセス米の輸入はWTOの国際公約などと言いつつ、言い張っていますが、次のグラフのように、米だけを見てもWTO加盟国の平均は基準数量の半分程度におさえ、輸入を減らしています。



しかし日本政府はSBS米で輸入できない分は、一般のミニマムアクセス米として買い入れ、飼料米などに60キロあたり1200円程度で販売しています。売買差額は日本政府の負担です。

子育て応援券

べっぴんも一人に10Kg



2022年度3月補正予算(案)では、物価高騰対策関連事業として子育て世帯へのお米引換券配布が計上されています。2022年度で3回目となります。

引換期間は年2回

今回の内容は、1〜18歳までの子ども一人に対し、小矢部市産精米コシヒカリ10キログラムです。引き換え期間は、2023年5月〜6月と2023年11月〜12月(2023年産 新米)の2回で、その間にお米と引換でき葉す。

625人分1、450万円の事務費65万円を加えて、1、515万円になります。その財源は、地方創生臨時交付金1、000万円と一般財源515万円を当てます。

この事業で、子育て世帯は家計が大いに助かるとともに、子どもたちが小矢部市産米を味わい、今後のお米消費拡大につながれば、農業への応援になります。

政界狂歌 昭和の仙人

赤旗のサンプル配り春近し 寝てるシンパを目覚めさせたり

100年の歴史を背負い共産党 正論吐きて止まることなし

